

### 3 役職に応じた教育訓練

消防の活動は、役職に応じその役割が異なることから、それぞれの役職に応じた訓練内容を検討する必要がある。

ア 指揮者・・・ 隊や活動全体の安全管理のため、状況に応じた的確な判断能力を養成することが必要である。

イマジネーションを高めるため、図上訓練やKYTといった訓練が有効である。

イ 隊員・・・ 個々の作業の安全性を向上させるため、反復訓練による基本行動の徹底が必要である。

慣れ・マンネリ化を生じないように新たな条件を付加するなど訓練に新たな刺激を与えることが有効である。

災害現場には一つとして同じ状況はないため、フラッシュオーバー、活動障害など様々な想定を取り入れ、状況判断能力、イマジネーションを高めることが何よりも必要であることを強調しておきたい。

また、責任の分散を防ぐため、指揮者の災害現場全般にわたる最終的な責任の所在の明確化が必要である。

東京消防庁が濃煙熱気内における消防職員の行動と心理的影響に関する研究において実施したアンケート調査結果では、教育訓練機会からしばらく遠ざかっている消防士長の階級にある職員のヒヤリハットに関する認識が一番低かった。このことは、ベテランでも教育訓練の機会から遠ざかると安全意識が低下することを示しており、従って、職員全員が定期的に教育訓練を受けることが必要不可欠であるといえる。

### 4 五感いきいき安全プログラム

#### (1) 五感いきいき安全プログラムとは

作業者の安全意識を高め、維持することを目的として正田亘氏(立教大学名誉教授、常磐大学教授)により開発された新しいタイプの安全教育プログラムである。

人間が本来持つ五感【視覚・聴覚・味覚・触覚・臭覚】の働きを再認識させて、作業中における作業者の五感の働きを高め、自然に安全な行動がとれるようにすることを目的としたゲーム方式のトレーニングであり、例えば、敏捷性を見る「棒づかみ運動」や平衡感覚を見る「開眼一本足運動」といった、年齢、学歴、性別に関係なく、どのような階層の人にも理解しやすく、始業時や終業時、休憩時間等に短時間で手軽に行える内容となっている。

#### (2) 導入による効果

加齢とともに運動機能(筋力、瞬発力、持久力、調整力、敏捷性)及び感覚機能(視

力、明暗順応の調整機能、視野、聴力、臭覚、痛覚等）等が低下（特に、バランス保持力及び脚筋力が低下）し、消防活動、訓練時において受傷するケースが増えることから、五感いきいき安全教育プログラムを活用して、職員一人ひとりが自分の身体能力を認識して、安全意識を高め、維持する努力が肝要である。

## 5 図上訓練

### (1) 図上訓練とは

災害の発生にともなう各種の事態を一連の状況として予測し、これに対する災害対策要員の状況整理、各担当業務間の連携及び対処の要領等について、統一された対応策を遅滞なく講ずることのできるように、実際に災害対策本部を開設し、被害想定地図や表示駒等を使用して実践する訓練をいう。

この訓練では、情報の収受から災害応急対策の立案まで、具体的に各担当の任務や意思決定までの一連の過程が検証できるとともに、災害に対応する能力を養うことや、災害に対するイメージーション能力を高めることを目的とするものである。

### (2) 導入による効果

災害現場管理は、部隊管理、隊員管理及び安全管理等にあることから、単に各級指揮者の指揮能力を向上させるだけでなく、安全管理に対する感性を磨き、イメージーションを高めることが重要である。震災消防活動訓練等に実用化されている、状況付与型図上訓練（状況シナリオ付与型、情報リテラシー型）や状況予測型図上訓練（状況シナリオ創出型、ビジョン型）を他の消防活動訓練にも効果的に活用していく必要がある。

## 6 実災害に近似した環境を再現できる施設の必要性

実災害に近似した環境下（濃煙熱気状態、バックドラフトやフラッシュオーバー等の火災状況、ガラス・瓦落下、梁・柱・壁倒壊、床抜け、釘等の踏み抜き等）において、安全管理に係る消防活動訓練を実施することは、現状では様々な課題がある。特に、火災と煙を自在に再現できる訓練施設の設置が困難であることから、発煙筒や現示旗等による擬似的環境下における訓練とせざるを得ない状況にあるため、消防職員が火災現場での危険を実感しながら安全管理に取り組むことができないのが実情である。

## 7 その他の安全管理にかかる効果的な教育訓練等

### (1) 「受傷事故速報」の提供

受傷事故が発生した場合には、後日に詳細情報を提供することも重要であるが、関心の冷めない早い段階で重要情報のみを速報で流すことが安全意識の向上にとって有効である。